

9. 二枚貝資源緊急増殖対策委託事業

桐山隆哉・岩永俊介・吉田政彦

二枚貝類の人工種苗生産技術の開発と二枚貝資源の増大手法の確立を目的に国立研究開発法人水産総合研究センター西海区及び瀬戸内海区水産研究所と有明4県が役割分担し、平成26年度から実施。総合水産試験場は、実施項目「長崎県地先における親貝の分布と親貝の育成」を担当。

方法

分布調査 タイラギの分布情報を基に、諫早湾内の干潟域では4月（5地点：St.1～5）と12月（2地点：St.1, 4）の大潮最干潮時に、浅場の覆砂域では6月（1地点：St.F）と翌年2月（5地点：St.A～E）に潜水委託し、タイラギの分布状況を調べた（図1）。潜水調査は、6月ではSt.F周辺の120 m²（ロープ長20 m×ロープに沿った調査幅1 m×6箇所）、2月ではSt.A～Eの250 m²（50 m×1 m×5調査地点）をそれぞれ調査した。

育成試験 西海区水産研究所提供のタイラギ人工稚貝を平成26年10月（実験1）と27年12月（実験2）に、新長崎漁港内の筏で飼育の親貝を27年5月（実験3）に、それぞれ諫早湾地先の干潟域に移植し（表1）、その後の生育（実験1, 2）と成熟（実験3）の状況を調べた。なお、実験2は西海区水産研究所と共同で行った。

結果

分布調査 干潟域では、4月にSt.2で42個体/（沿岸線50 m×幅20 m）、St.4で87個体/（800×10 m）、12月にSt.1で270個体/（200×100 m）、St.4で84個体/（800×10 m）の殻長約15～20 cmのタイラギを各々確認した。潮下線下の浅場の覆砂域では、2月にSt.Aで殻長約9 cmのタイラギ1個体/50 m²を確認した。

育成試験 実験1では、移植3ヶ月後の1月にはほとんど残存しておらず、移植6ヶ月後の4月にはフェンス状網囲い区で2個体（殻長63, 122 mm）のみとなった。

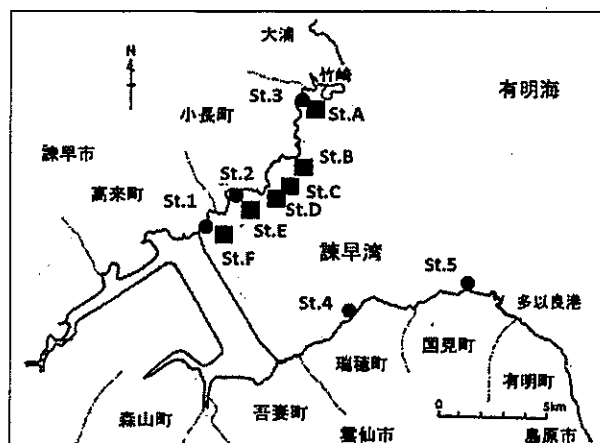


図1 タイラギ分布調査位置図

●：干潟域調査（St.1～5），■：潜水調査（St.A～F）

実験2では、移植1ヶ月後の1月には施設ごと消失した。このため、実験1は4月に、実験2は1月に中止した。実験3では、移植した親貝20個体は、開始時の5月には未成熟であったが、その後、生殖腺の発達がみられ、8～9月には放卵個体が確認された。移植4ヶ月後（9月）の親貝の歩留まりは85%であった。

まとめ

- 1) タイラギの分布調査を干潟域（5地点）と潮下線下の浅場の覆砂域（6地点）で行った。
- 2) タイラギは干潟域を主体に確認され、生息密度は0.01～0.04個体/m²、殻長は約15～20 cmで、平成27年級群は浅場の覆砂域での1個体のみ確認であった。
- 3) タイラギ稚貝の干潟域への移植試験では、生残率の向上や移植する施設の安定等が課題であり、移植のサイズ、時期、場所、方法等について、再検討する必要がある。

（担当：桐山）

表1 タイラギ育成試験の実施状況

実験開始	場所	実験区		供試したタイラギ	移植方法	
		区分	底質および基質			
H26.10.28	諫早市小長井町地先 （アサリ漁場）	実験1 （稚貝移植）	砂地	フェンス状網囲い 網の被覆	人工種苗殻長14mm、4,000個体 人工種苗殻長14mm、4,000個体	直播き（自然潜さ） 直播き（自然潜さ）
H27.12.26	諫早市高来町地先 （アサリ漁場の沖）	実験2 （稚貝移植）	アンスラサイト 周辺の泥	トリカルネットの蓋 トリカルネットの蓋	人工種苗殻長30mm、100個体（50個体/籠×2籠） 人工種苗殻長30mm、100個体（50個体/籠×2籠）	直播き（自然潜さ） 直播き（自然潜さ）
H27.5.18	諫早市高来町地先 （アサリ漁場沖側）	実験3 （親貝移植）	泥地	なし	殻長20cm前後、20個体	直植え